

## 根岸外国人墓地 知っていますか？



山手駅を出て、左へ進む。2 又に分かれた道を右方向へ。奥に案内板が見える。

### 「根岸外国人墓地」に光をあてる

この外国人墓地は JR 京浜東北・根岸線山手駅のすぐ近くにあります。港の見える丘公園近くにある有名な外国人墓地は「横浜外国人墓地」（通称「山手外国人墓地」）ですが、こちらは JR 山手駅が間近ながら「根岸外国人墓地」という名称です。横浜市中区仲尾台 7 丁目、面積約 3000 坪、段々畑のように東側丘陵面に広がるこの市営の外国人墓地は横浜市民にさえ、あまり知られていません。

明治時代初期、山手の外国人墓地が手狭になり、それを解消するために造られた日本で亡くなった外国人用の墓地なのですが、特筆すべきは、戦後間もなく、ここに多くの嬰兒が埋葬された事実があることです。このことで根岸外国人墓地が「闇の歴史」とか「負の遺産」と呼ばれたりします。

約 35 年前、墓地のすぐ上にある仲尾台中学校の社会科教師であった田村泰治氏と生徒の皆さんが、この墓地の調査研究をしたことから、初めてこの外国人墓地の存在に光が当てられるようになりました。今回の特集記事は、田村先生執筆の原稿を元に、編集を多く加えました。

（横浜歴史さろん 渡辺登志子）

## 特集 横浜の戦後史を考える ーもう一つの外国人墓地ー

田村泰治



出入りは左の小さなくぐり戸から

### 1. 子供の発想から始まった墓地清掃と調査

JR 根岸線「山手駅」の斜面、仲尾台に造成されている外国人専用の墓地「根岸外国人墓地」は、私が14年間(1973～1987)勤務していた市立仲尾台中学校の歴史研究クラブや生徒会によって調査研究を始めて、市営墓地の一つとして認識されたと言っても過言ではない。中学のグラウンド脇が「墓地」であったことが事の始まりである。そして、この研究は単純で、子供の発想から始められたことが立脚点である。



墓地の管理事務所。右側に新たな看板が建てられた。

仲尾台中学校のあるこの台地は戦中、高射砲陣地として構築された。戦後になり、親校の港中学校が生徒の急増で、急遽ここに分校として建てられたものが、その後「仲尾台中学校」として独立した。

校庭はあまり広くなく、ボールがフェンスを越えて脇にある墓地内に落下してしまうことがしばしばあった。墓地の管理人さんの国富(正男)さんがバケツにボールを拾い集めて届けてくれるので、お礼にお茶を接待して話をする機会が重なり、この根岸外国人墓地の状況を知ることができるようになった。

この墓地に参詣に来る人はほとんどなく、異国で亡くなり葬られた外国人であること、清掃も草刈も一人の管理人では手に負えない状況が分かった。それは校庭から見える墓地内の雑草が伸び放題の荒れようを生徒たちは身をもって知っていた。素直な気持ちで慰霊したいという思いが生徒会・奉仕委員会から自然発生的に起った。学校が「JRC 青少年赤十字団」に全校加盟で、国際親善意識を持っていたことも、こうした活動への後押しになっていたと思う。

生徒たちは、墓地の清掃から立ち上がった。まず、雑草の除去から始めた。しかし、清掃、草刈りといっても、鎌など持ったことがないのだから本当に大変だった。生徒会が鎌を購入してくれ、ゴミ袋・軍手は各自が持参してとりかかった。

一方、私が顧問の歴史研究クラブの生徒たちは埋葬されている人たちと横浜との関連に興味を持ち、それらを知りたいと言ひ出し、調べることになった。私自身はこの墓地の歴史的な調査研究をすることになった。清掃と調査、管理人さんと協力して実施していくことになった。

## 2. 横浜市長も知らなかったもう一つの外国人墓地の存在



現在、外側からみるとこんな感じで、緑に覆われている。

墓地の調査を始めるにあたり、管理人の国富さんから意外なことを聞かされた、「資料がない」。資料は占領軍に没収されてしまい何も残っていないという。とにかく、頼るべき資料が何もなかったので、墓石・埋葬者の分布図を作成、墓石の刻銘の記録、写真撮影が大きな作業であった。しかし、ほとんどがガサ藪で生い茂った雑草で手が付けられず、ヤブ蚊との戦いであった。これを見かねた地元の老人会が手助けに入り、さらに自治会の方々も協力してくださり、用具も整い、蚊取り線香を腰にぶらさげ、土日・春休み・夏休みに活動を続けた。

そうした中、横浜市会でこの問題が取り上げられ、その実情が明かされたが、当時の市長は根岸外国人墓地の存在すら知らなかったという。ともかく問題になったおかげで、急遽、横浜市が業者を派遣してくれ、瞬く間に、たった2日間で清掃は完了した。

歴史部員は墓石の記録をし、地図上にその位置を記し、写真を撮影して一つ一つの墓石を記録・確認していった。図面ができると埋葬者の経歴等に興味に移り、まず、国籍・没年月日を記録していった。外国の墓石には日本と違い、誕生年月日と没年月日が記されているのに気付いた。しかし、刻まれている外国語は読めないし、スペルが分からなかった。そこで、ロシア語は有隣堂編集部にいた詳しい方に、フランス語は学校の近くにお住いの大学教授に、英語は学校の先生にという具合で、専門家に尋ねて正確に記録することを心掛けていった。



(左) 1段目から2段目へ上る階段。(中央) 2段目にあるplot 1。  
(右) 3段目のplot 4。まばらに小さな墓石が残っている。以前はここに小さな白い木製十字架がたくさん建てられていた。

### 3. 開設年度の不思議 22年の差は？

私が行なった歴史調査の過程で、驚くべく事実が判明した。

横浜市史・市史稿ではこの墓地の開設は明治35（1902）年として明示されていた。どの横浜の歴史書も同様であった。しかし、調べた結果、明治13（1880）年9月13日に完成していたことがわかったのである。

明治に入り、山手の外国人墓地が手狭になり、日本政府は居留外国人から新しい墓地の開設を要求されていた。現在、山手駅から伸びる大和町商店街の辺りが、当時の候補地に上がったが、この商店街の直線道路は、かつては駐留外国軍隊の射撃場であったので、その付近に墓地を造成することは危険と反対された。が、候補地難もあって、その先にあるこの仲尾台に造成することに決まった。国が神奈川県に建設費用を支出して完成されている。（当時はまだ横浜市〈市制施行は明治22年〉はなかった。）その決算報告書が大蔵省の記録に残されており、それが明治13年9月13日なのである。



（左）plot 2 か plot 3 のあたり。



（右）一番上段の plot 7 エリア。そのフェンス向こうは仲尾台中学の通学路。

この22年間の差は何故なのか。それは日本が不平等条約の治外法権撤廃を獲得するまでのことと関連していたことが想像できる。

いま、横浜山手外国人墓地は5ヶ国領事の管轄地で、横浜市の管轄下に置かれていない。日本が当初

結んだ条約が不平等で、治外法権を認めていることから、山手の外国人墓地は外国領事の管轄で、横浜の土地でありながら外国5か国が管理する体制であった。根岸外国人墓地も、その時開設していたら外国領事の管轄下に入ってしまう。そのため、「立野小学校敷地」とか「公園予定地」などと地図には記載して、不平等条約が撤廃されるまで放置されていたことが史料から読み取れた。（編集者注：治外法権は1894年（明治27）にイギリスとの間で一部撤廃されたのを始めとして、その後他の欧米諸国とも同内容の条約を結んでいった。1911（明治44）になり治外法権は完全に撤廃された。）

### 4. 嬰兒の墓

ここに大きな問題に突き当たった。

この墓地には小さな白い十字架が広範囲にびっしりと建てられていた。それは、たくさんの嬰兒の墓であるという。700～900体、それも終戦直後の混乱時期、多くが米兵と日本人女性との間の子供であるとのこと。この問題を扱うの



この木製十字架には金属版に名前と生没年月日がある。（約40年前）

は子どもたちには酷であることから、生徒たちによる墓地の調査研究はこの問題を伏せて終了した。これに関しては、私が責任をもって調査を続け、対応していくことにした。



木製十字架は処分されてしまったが、小さいながらも墓石は残っている。(左上) plot 1に残る墓石、左下はその生没年月日 (BORN 29 Jan 1948, DIED 30 JAN 1948)、わずか2日間の命だった。(中央と右の写真) これらの墓石は plot 7にあったもの、1960年と1961年の生没年である。このことから、plot1から plot 7へと時代が埋葬年は下っているようだ。

## 5. 日本は戦争に負けた

いま、私が敗戦直後の横浜を思い返すと、戦後、占領・接收で大部分の市内中心部を外国軍人関係施設で占められた。至る所で鉄条網で囲まれたかまぼこ兵舎が建てられ、多くのビルや形だけ残った高級住宅は駐留将校の住宅に転用され、3万人余りの軍人の街となった。

経済は混乱し、配給制は遅配や欠配があり、生活が困窮、食糧不足は致命的で人々は作物獲得に走り、ヤミや買い出しで命を繋げる毎日であった。それに引き換え、占領軍の宿舎は豊富な物資や食料で満たされ、食べきれない大量の残飯を平気で棄てる姿に日本人は見とれるほかなかった。子供たちは米兵士に群がって菓子やせびり、女性は生活費が得られる仕事—女性が外国軍人軍属と交渉を持ち資金や物資を得る方法を用いざるを得なかったことも多かった。街頭で客を拾う姿に敗戦の惨めさを感じないわけにはいかなかった。

## 6. 嬰兒の死、その埋葬、山手ではなく根岸へ

米兵と日本人女性との関係の結果、望まない妊娠、出産で、多くの混血児が誕生した。早産や血液異相等による死産も多かったという。当時の日本はまだ外国人や混血児に対する偏見や差別が当たり前横行する時代、女性が混血児を育てるには負担が大きすぎる。そのため、無事に生まれても孤児院へ預けたり、捨て子にもなった。死産児や生まれて間もなく亡くなった嬰兒は外国人墓地へ持って行った。山手の外国人墓地ではその埋葬を断られ、根岸に行くように指示されたという。当時も根岸外国人墓地は埋葬が禁止されており一般には開放されていなかった。しかし、そこに約700体または823体ともいう嬰兒が埋葬されたといわれている(正確な数は不明)。それが事実であると裏付けるものとして、横浜を管理していたアメリカ軍第8軍司令部の葬送事務所(平屋建ての小屋)がすぐ近くの、現在も立野の丘に建つ

YC&AC（横浜カントリー&アスレティッククラブ：外国人会員用のクラブ）の隣にあったことや、根岸外国人墓地が接收されていたという経緯、付近の住民が米軍のトラックやジープの出入りを何度も目撃したと証言していることなどが挙げられる。墓地の書類は第8軍に没収されてしまい、当時のことが記録されたものがないから、混血嬰兒埋葬がどれほど行われていたとしても、その正確な数を知り得ることはできない。

その数を横浜市衛生局は100人余りと言っていたが、私が勤務していた14年間（約40年前）、毎日の登下校で墓地際の通学路から見ていた白い木製の小さな十字架は約30cm間隔でびっしりと立てられ、それは数えきれないものすごい数であった。誰がこの十字架を立てたのか？と想っていた。管理人の国富さんが十字架を修理している様子を目撃したことがあった。（今は跡形もなく、当時の木製十字架は一

つも無い）

編集者注：後述する「天使はブルースを歌う」（山崎洋子著 1999/10/1 毎日新聞社）より— 252p・・・「崖に沿ってね、八百何十基もの小さな白い木の十字架が立ってたんす。びっしりと……。厚木基地なんかで手に入れることができたみたいですね、そういう十字架を」 十字架には真鍮のプレートに埋葬者の死亡年月日と名前が記されているものもあった。それらが1946年から1948年頃に生まれて死んだ嬰兒だったと国富さんが言う。・・・

・・・253p 山手外国人墓

地の管理人だった、故安藤寅三さんが、YCACの依田成史さんや法医学者の西丸輿一博士などに語ったという、「毎夜、山手外国人墓地にこっそり置いていかれた混血の赤ん坊」の話がある。安藤さんは一時、根岸外国人

## 日本は戦争に負けて占領された

一億総玉碎とは言ったものの、戦争に負けたら、占領軍がやってきた。親を失くした戦争孤児、浮浪児と呼ばれた子供たちが駅にたむろした。靴みがきで稼ぐ子もいた。街角では傷痍軍人が募金箱を抱えて、軍歌など演奏して人目を引いていた。高潔な官僚は配給だけで生きようとして、餓死した。

戦後まもなくは、覚せい剤がヒロポンと言って薬局で合法で売られていた。酒に酔いたくて、メチルアルコールを飲んで、失明するような事態も起った。

自分自身そして家族が食べて生きるため、進駐軍の米軍人に身を売る女もいた。米兵相手の女性はパンパンとかパンスケと呼ばれた。本牧には以前からチャブ屋という外国人相手の娼館があった。米軍パーティーではジャズにジルバ。ジープに女を乗せて街へくり出した。

昨日は鬼畜米英、今日はギブミーチョコレート。裸電球、混乱。嬌声、すさむ、やさぐれ……。その哀切を見事に唄ったのが菊池章子の「星の流れに」。

野毛、弘明寺などは闇市でにぎわい、何が入っているかわからない食物で腹を満たした。日ノ出町や黄金町にはヒロポン・売春・ストリップの悪いイメージがついた。（現在は違います）

米軍施設前をリヤカーを引いて通った時、門番兵に「ハロー、サンキュー！」と言ったら、明日から来いと、雇ってくれた。（以上、当時の状況を思いつくままに。編集者）

### 「星の流れに」(昭和 22

年)

歌：菊池章子

作詞：清水みゆの

作曲：利根一郎

星の流れに 身をうらなつて  
どこをねぐらの 今日の宿  
荒(すさ)む心で いるのじ  
ゃないが  
泣けて涙も かれ果てた  
こんな女に誰がした

煙草ふかして 口笛ふいて  
あてもない夜の さすらい  
に

人は見返る わが身は細る  
町の灯影の 侘びしさよ  
こんな女に誰がした

飢えて今頃 妹はどこに  
一目逢いたい お母さん  
ルージュ哀しや 唇かめば  
闇の夜風も 泣いて吹く  
こんな女に誰がした

墓地の管理もまかされていた。そうした遺体を、安藤さんは根岸外国人墓地に埋葬したと語っているのである。・・・

## 7. 混血児の統計は存在しない？！

連合国軍占領下の日本で、GI（アメリカ軍やイギリス軍兵士）を中心とした連合国軍兵士と日本人女性との間に生まれた乳幼児や子供は“GI ベビー”と言われていた。養育困難などの理由でしばしば孤児になり、「混血孤児」とも呼ばれた。エリザベス・サンダースホームの創立者沢田美喜らは孤児の米国移住を働きかけた。（以上 Wikipedia「GI ベビー」より）

あるアメリカ人旅行者が戦後の日本で生まれた混血児童の数は20万人と発言し、エリザベス・サンダースホームの沢田美喜氏がそれを追認した。そのなかでも黒人系混血児は4万人であり、差別や貧困に喘いでいると訴えたが、この数も正確ではなく、先のアメリカ人の20万人説は阪神地方での混血児8万人から推定したものと考えられている。つまり、**混血児童の正確な統計はない**。しかし、混血であることによる悲劇は至る所で起こっていた。

ちなみに、昭和27（1952）年8月1日現在で、厚生省が医師・助産婦から調査した結果を、3日付新聞に発表している。

**混血児 5013人（男子2635人、女子2378人）**

**内訳 白系 4205人、黒系 714人、不明 94人**

となっているが、これも識者からは不正確であると指摘されている。（混血児数については山崎洋子氏の引用を右欄コラム〈スマホでは最後方〉に掲載したのでご参照ください。）

自ら混血児であり、その苦悩を知っていた横浜市出身の詩人・フランス文学者である平野威馬雄（料理愛好家で有名は平野レミは娘）は、「レミの会」を開き、混血児の救済に立ち上がっている。（詳細は下方の右欄コラム〈スマホでは最後方〉を参照のこと）

## 8. 慰霊祭がはじまった

昭和60（1985）年、仲尾台中学校の秋の文化祭で歴史研究部が墓地の研究発表することになった。たまたまPTA役員の方が山

### エリザベス・サンダース・ホームと沢田美喜

エリザベス・サンダース・ホームは、沢田美喜によって創設された児童養護施設です。

美喜は、1901年三菱財閥の創始者・岩崎彌太郎の孫、三菱三代目の当主・岩崎久彌の長女として生まれ、成長して外交官・沢田廉三に嫁ぎ、海外生活を送る一方、クリスチャンとしての信仰を深めました。

彼女は、ロンドンに駐在中に「ドクター・バーナードス・ホーム」という孤児院で、ボランティアとして奉仕する機会を得て、「お金で買えない幸せ」があることに深い感銘を受けました。

第二次世界大戦後、駐留軍兵士と日本人女性との間に生まれた混血孤児たちの不遇な状況を目のあたりにし、この子どもたちを救うのが自分の使命であると考え、救済に立ち上がりました。

戦後の財閥解体により岩崎家の手を離れていた大磯の別荘を、金策に大変な苦勞をしながら買い戻し、1948年2月にエリザベス・サンダース・ホームと名付けた乳児院を創設しました。

その後、子どもたちの成長に合わせて児童養護施設とし、2千人の子どもたちを育て上げて社会に送り出し、1980年旅先のスペイン・マジョルカ島で急逝するまでの30年間、母として教師として子どもたちの養育に人生を捧げました。

（ホームページより抜粋）



墓地の入口手前にある案内板。文字は消えてしまった。上部にかすかに「根岸外国・・・」

手ライオンズクラブの関係者であったことから、根岸外国人墓地に眠る人々の慰霊祭を併せて行うことになった。11月、墓地で慰霊祭（＝墓前祭）、丘の上では文化祭が行われ、ライオンズクラブのご厚意で外国人遺族と生徒との懇談会が開かれた。埋葬されている先祖の思い出や当時の横浜についての話が聞け、生徒には墓地の調査清掃をした意味がより理解されたと思う。それから今日に至るまで、慰霊祭は地元の立野小学校、仲尾台中学校、山手ライオンズクラブの方々に毎年11月第1土曜日に催行されている。

【参考】昭和63（1988）年、横浜山手ライオンズクラブは、墓地の入口手前に日本語・英語で書かれた大きな案内板を寄贈した。その説明文はそれまでの歴史や経緯をよくまとめられたものであった。

2021年6月現在、案内板は全く読めなくなり、大きなステンレス版が虹色に輝いている。以前は以下のように読めた（左半分にあった日本語のみを記す。原文のまま）。

### 根岸外国人墓地

横浜外人墓地は文久元年（1861）、山手地区に設置された。横浜外人墓地が手狭になって拡張する土地がないことから、居留外国人より新しい墓地の開設が要望されたため、明治13年9月30日政府により根岸村字中尾の地に新設することが認められた。しかし、墓地の管理問題や立地が不便だったこともあって、本格的に使用され始めたのは明治35年（1902）横浜市に管理が移管された以降と考えられる。

この墓地は第二次大戦後占領・接収されていたとも言われ記録類が消失したため、正確なことはわかっていないが、現在1200有余の外国人が埋葬され、墓碑は160基程が確認されている。また、外国人船員、関東大震災罹災者及び第二次大戦後に埋葬された嬰兒（幼児）など、埋葬者名が不明なものも多い。

著名人では、関東大震災で亡くなられた、アメリカ領事キリヤソフ夫妻、世界一流の音楽家を日本に紹介したストローク氏（イタリア・1965年没）が埋葬されており、また記念碑としては「外国人震災慰霊碑」（横浜市）がある。

〔昭和60年より2年の歳月をかけて、横浜市仲尾台中学校歴史研究部（顧問田村泰治氏）生徒により、当墓地の沿革・概況調査を実施した。〕

### 混血児数と受け入れ先について

『神奈川の社会事業』（神奈川県民生部発行、昭和28年3月31日）によると、昭和27年5月1日の時点で、県下の混血児は553人。うち366人が横浜市内にいる。・・・553人のうちの276名が県内の児童福祉施設に保護されていた。この数字は全国の児童福祉施設にいる混血児の57.2%に相当する。

調査は神奈川県の場合、児童相談員が担当区域を回り、混血児を識別し、養育者、関係者、駐在経験者、町内会世話人などに面接、聞き取りをするという形で行われた。ただし、「対象者を刺激しないよう」少々あやふやな話であっても深く追求することはなかった。また、外国人家庭にいる者、朝鮮、中国系はこの数字に含まれていない。さらに言えば、その前に亡くなった混血児については全くカウントされていない。・・・

保護施設に目を向けると、最も多数を受け入れていたのは横浜・山手の聖母愛児園。143人を保護している。次いで多いのは大磯のエリザベス・サンダース・ホームの113人。・・・（山崎洋子氏「女たちのアンダーグラウンド」114pより）



異国の地に眠る故人の永遠の安息を祈る。

昭和 63 年 2 月 寄贈 横浜山手ライオンズクラブ

## 9. 慰霊碑建立 何を誰を慰霊する？

また同じ頃、山手ライオンズクラブ3周年記念行事として、「慰霊碑」建立の募金が始まり、多くの賛助者を得て、慰霊碑が建てられることとなった。

横浜在住の作家・山崎洋子氏は小説の取材中に、この嬰兒埋葬の事実を知り、「生を受けていれば自分と同じ五十歳代（当時）」と、嬰兒への深い思いをも含めた書籍「**天使はブルースを歌う—横浜アウトサイド・ストーリー—**」（1999/10/1 毎日新聞社）を発売した。山崎氏は、「慰霊碑建立」に賛同し、「丘の上のエンジェル」を作詞し、作曲・歌はザ・ゴールデン・カップスのエディ・藩氏に依頼、その収益金を寄付している。外国人有志からも寄付があり、いよいよ慰霊碑作製にとりかかった。しかし、この「慰霊碑」建立は予想だにできなかった騒動と困難な交渉を経ることとなった。

それまで市当局からは全面的な協力があつたのだが、いざ建立となった時、墓地内に慰霊碑を建てることに反対するようになった。長いこと話し合いがつかず混迷した。結局、碑文の一部をカット、そして設置場所の変更で決着した。

1999年5月22日、慰霊碑の除幕式が行われた。建てられた場所は、入口すぐの階段脇、ここは嬰兒の葬られたずっと上方段の場所とはかけ離れた場所だ。

碑にはただ『rest in peace 慰霊』の文字のみ。この墓地の埋葬者全体への慰霊碑との体裁である。建てられた理由・経緯など何の説明も記されることはなかった。

ただ、台座上に片翼だけを広げて飛ぼうとする姿を表すような水色の彫刻があり、そこに生きて飛べなかった嬰兒の魂が刻まれているようで、多少なりとも“救い”に思えた。

（編集者注：台座足元に、「根岸外国人墓地に眠るすべての御霊がやすらかなることを祈って」という読みづらい平面の銘板があることから、墓地全体を慰霊している碑となっている。）

同様に入り口手前に建てられた案内板の説明が日本語と英語で書かれていたが、いつの間にか嬰兒の説明箇所が消されていて、「近く取り替える」という説明があつた。これもライオンズクラブが寄贈したものであつた（前述の【参考】）。

## 最も多くの混血児を受け入れた 横浜山手の聖母愛育園

聖母愛育園の始まりは、一般病院（中区山手町 82）の玄関先に子どもが放置されていた昭和 21 年 4 月です。その後、駅や道路に置き去りにされている乳児を警察がシスター達のところへ連れてくるようになり、聖母病院からも同じような乳児が届けられました。シスター達は、一般病院（中区山手町 82）内で、子どもたちの養育を始めました。

昭和 20 年代 30 年代は、ドイツ・カナダ・ハンガリア・ポーランド・イングランド等のシスター達も活躍していました。昭和 21 年 8 月までに、子どもたちを 22 名預かり、翌年 8 月までには 136 名受け入れるなど、献身的に働きました。昭和 20 年代は戦後の混乱期であり、生後間もない子どもたちが放置されており、その上、発疹チフス、痘そう・コレラ等の伝染病が蔓延していました。預かっても疾病や栄養失調等で死亡に至るケースが多く、献身的に働く職員たちの心中は、穏やかではなかったことでしょう。

また、昭和 25 年から昭和 35 年までは、アメリカのご家庭との養子縁組があり 250 組程の縁組みが成立していました。・・・

（同園ホームページ「沿革」より抜粋。さらに詳しくは以下のサイトをご覧ください。

<http://seiboaijien.com/%e6%b2%bf%e9%9d%a9/>



「片翼の天使」といわれる慰霊碑

口に案内板を寄贈した。英語と日本語で書かれたもので、文面は山手ライオンズクラブと横浜市が協議して作成した。それから12年経った2000年、市は案内板を補修した。その際、文面の『第二次大戦後に外国人軍属と日本人女性との間に生まれた数多くの子どもたちが埋葬されている』という記述を『第二次大戦後に埋葬された嬰兒（幼児）など、埋葬者名が不明なものも多い。』と勝手に書き換えた。」とある。

（ネット上の「タウンニュース 2019年9月12日号掲載」、山崎氏へのインタビュー記事より抜粋）・・・横浜市役所には取材拒否された。「この開放的な街には隠さねばならないことが、少なくとも行政はそう信じているらしい歴史があることをあらためて思い知った」と、山崎さんは著書に書く。「犠牲になった沢山の人のことを、なかったこととして消すことがたまらなく嫌だった」と振り返る。本著では、横浜だけでなく札幌やタイに飛び、時代に翻弄され闇に葬られた女性やその子どもの生き様を追う。「進駐軍は当時、日本全国にいた。だからこれは横浜だけではなく、日本のどこにでもあった話なんです」・・・

## 10. 「敗戦」から「終戦」が意味するもの

現在では、社会科の教科書で1945年は日本の「終戦」となっている。「敗戦」、「無条件降伏」したにもかかわらず、その文

編集者注：山崎洋子氏は、20年後に、続編ともいべき『私たちのアンダーグラウンド 戦後横浜の光と闇』（2019/4/25 亜紀書房）を出版した。戦災孤児と混血児に焦点を当てている。

この中に、次のような記述がある。「1988年、横浜山手ライオンズクラブが創立20周年記念として、墓地入

## 生き延びた混血児・混血児家庭への救援 横浜の詩人 平野威馬雄と「五三の会」

平野威馬雄は自らが親日派のロシア人父と武家出身の母との間に、明治33（1901）年に東京で生まれた。フランス文学、詩を専門に活動し、翻訳や書籍を多く発表している。

自らが混血児であったことや娘の誕生もあったことで、戦中・戦後、差別され悲惨な目にあっていることから、混血児を持つ家庭の苦しさ十分に理解できた。そこで昭和28（1953）年、平野が発起人になって、同様にハーフの、オペラ歌手・藤原義江、佐藤美子、俳優の江川宇礼雄が世話人になって一九五三年会（五三会）を結成。1月26日、会員40名で発足。マスコミや社会的地位を利用した講演会、チャリティーショーを全国で開き、混血児救援資金を集め、教育現場や地域社会で偏見や差別がなくなるよう啓蒙運動に努力し続けた。

平野氏は自宅の千葉県松戸市相模台を解放して、混血児の母と子を救う会「レミの会」（編集者注：レミは児童文学「家なき子」の少年の名。タレント・料理愛好家の平野レミは娘）を開き、孤児も引き取り、その子を家族として生活を共にしていた。また、毎週2名の混血児を招き、家庭の温かさを体験させることも行っている。著書「混血人生記」日本出版協同発行、昭和29（1954）年刊に、心情が述べられている。



平野威馬雄



藤原義江



佐藤美子



江川宇礼雄

字には敗けた『むなしさ』がない。『終戦』とする心情は日本人の名誉をあくまでも尊ぶ表れであるという。しかし、それは欺瞞だと思う。「喉もと過ぎれば熱さを忘れる」ということわざがあるが、この度の太平洋戦争の悲劇を忘れていいものであろうか。戦争を美化したり、英雄視する物語などが出回ると、ノスタルジアだけで、本来の苦難を忘れさせ、事実を一面的にしたものだけを歴史として捉え、過去の苦難の姿＝実態を霧散させてしまう。ましてや我々のような経験者が老齢化し、その存在が消えてなくなってしまうえば、未来はどうなってしまうのかと危惧している。

「消された戦争の歴史 後世にどう残す」NHK朝7時放送の「おはよう日本」けさのクローズアップ（2019年12月13日）で、根岸外国人墓地のことが放映された。再び、この嬰兒埋葬のことを取り上げてもらえたことで、まだ、完全に忘れ去られてはいないと少し安堵している。（編集者注：その内容は以下のサイトでみることができる）●NHKのサイト <https://www.nhk.or.jp/shutoken/ohayo/report/0005602.html>  
●山崎洋子氏の「冬桃ブログ」 <https://blog.goo.ne.jp/yokohamaneko/e/45760ae0fd1699ff4ad36ccc713e9065>

### 1.1. 負の歴史遺産であっても受け止める心の広さが・・・

歴史には正と負の面がある。為政者や権力者などにとっては、その行為の正当性を強調することによって自己の立場を優位にし、歴史的な存在価値を確かなものにする。とすれば、負の側面は自己の保身のためにも、削除・歪曲して、隠ぺいするのが得策となるのだろう。果たして、根岸外国人墓地の嬰兒埋葬は行政にとって、負の歴史遺産であり、削除の対象なのだろうか。

「正確な記録がない、資料がないから公にできない。」行政はこれ一点張りの答弁で今日まで来ている。しかし、歴史は記録に残されたものだけで綴られているわけではない。噂話も時には伝承にもなり、それがその後の歴史に大きく影響することもある。戦後まもなく根岸外国人墓地で起きていたことは、日本の敗戦がもたらした悲劇的な事実である。事実は事実として冷静に客観的に受け止める器の大きさ、心の広さが必要なのではないか。起こった事をどのように評価するかは各人の自由であり、史実とは関係ない。



この先、絶壁、道がない。  
plot 6か。



～片翼の天使たち、安らかなれ～

横浜にあるもう一つの外国人墓地、根岸外国人墓地にある慰霊碑とその慰霊祭は、明らかに、生きて飛べなかった子供たちを第一義に考え企図された「慰霊碑」であり、毎年恒例行事となった「慰霊祭」なのである。そのことを多くの市民には是非知っていただき、広い心で受け止めてもらいたい。



ドイツ海軍犠牲者の慰霊碑。  
前面の銘板がはがされて  
いたが、作り直された。

## 12. 補足：慰霊祭にドイツ海軍犠牲者の慰霊が加わる

墓地内、管理事務所近くには三角柱型の立派なモニュメントが建っている。しかし、その金属板が戦時中、金属類回収令で供出、剥がされたままで、書類も没収されていることから何の碑なのか不明のままであった。

根岸外国人墓地が世間に注目され始めた頃、同墓地の清掃・慰霊祭に協力して下さった山手ライオンズクラブの方々が調べたところ、それは横浜港新港埠頭内で、1942年（昭和17年）に起こったドイツ艦船の爆発事故の犠牲者の慰霊碑であることが判明した。

1942（昭和17）年11月30日、横浜港で火薬や燃料を積んだドイツ海軍の軍艦3隻、日本船1隻が爆発炎上し、多数の死者（102人犠牲）を出す事故が起こった。多くの死者の埋葬は山手外国人墓地（こちらは将校クラス）であったため、根岸にも存在することは気づけなかったのだ。

同クラブでは1994（平成6）年、銘板を復刻し、毎年11月第1土曜日に行われる墓前祭（慰霊祭）に、この年からドイツ海軍犠牲者の慰霊も加えることになった。当日はドイツ大使館から大使や武官が出席、小中学校も献花して冥福を祈っている。幼い嬰兒の慰霊が拡大され、国際的になり、本来の目的が薄れてしまうという危惧もあるのだが、駐在武官キーゼヴェッター大佐の「平和は自由があってこそ。国際交流が盛んになり戦争がない社会であってほしい」という言葉が単なる墓前祭ではない国際親善の実践であることが理解できよう。

—了—



plot 2 から 3 区を眺める